

「シャバはつらいよ」

大野 更紗 作

斉藤スミ子 '16.9.17



大学院生の時、ミャンマー難民支援に支援に行くための資料集めをしているとき突然難病が襲い人生が一変してしまう。大体はこの人となりを知っていたのでこの題名を見た時少々重いものを想像した。しかし、内容は違った、自分が生きることが大変な状況の時に「東北大震災に遭遇する。もともと福島県生まれということもあり、親戚も自分も大変な状況に飲み込まれていく。この中で彼女は「今、自分に出来ることは何か？」

自分の痛みがあるから、人の痛みが他人事でなくなるんだと思う。これがこの人のやさしさであり、強さだと思った。

人からヘルプを受ける人がヘルプを与える立場になる転換点になつとも思う。こういうときって人間ピリッとできる時だとも思う。全体前向きに生きる姿は素晴らしいと思った。難病の人だけでなく人間なんのために生きるのか。周りの人に力を勇気を与える一冊だと思う。

また、差額ベット台の高さにびっくりした。1日3万円1か月93万円!!! ベット台だけで!! まさにお金が命の切れ目だ。

「さらさらさん」も2冊目として読んだが、イマイチだった。大野さんアタもの良さはビックリするくらいですすがに大学院生だと思ったが、論戦はりっぱだけど地とつながりが見えてこず、半分くらいで読むのを辞めてしまった。私の頭がついていけなかったのかも??



「時計の傷」

伊集院 静 作

NHK ラジオ文芸館 '16.10.29

この作家の本は読んでなかったけれどなかなか面白かった。

80代だろうか老夫婦の語りで始まる。主人は大手企業の企業選手として子育ても妻に任せて会社一途に働いた。ようやく一人息子を授かり成人した息子が彼女を連れて帰ってくる。一目で普通の女性でないことが分かる。母親が反対するが息子は「この人のおなかに赤ちゃんがいる。別れない。」という。父親は「反対はしない。お前が選らんだ人だ。祝福する。しかし、学生のお前が、今後どうこの子を育てようと考えているのか教えてほしい。考えたら私たちも応援する。わかったら知らせてほしい。」といった。息子はそれ以後帰っては来なかった。赤ん坊が生まれて息子は交通事故であっけなく死んでしまう。

息子の彼女が「私は経済的に育てられないので、育ててほしいと赤ん坊をこの夫婦に託

す。母親は反対するが、父親は受け取る。この孫はこの祖父母に温かく育てられた。ある日、この子が遊んでいてけがをしたとき輸血が必要になり、血液型から息子の子どもでないことが分かる。祖母は愕然とし、夫にただすが「そんなことがあったのか？ でも、良くあることじゃあないか。息子が愛した人の子どもだ」と言って育てた。

高校になると全寮制の九州の高校に入学させ、大学も終え就職が決まり社会人になるとき、また祖父母のもとを訪れる。自分の祖父母と思い込んでいる3人の会話に心が和む。孫は帰りました、静かなある日、夫は静かに幸せそうな顔で旅立って逝った。

この人の本も読んでみたくなる一冊だった。